

児童発達支援

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリームつばさ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～	令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～	令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族からの相談や申入れがあった際は迅速かつ適切に対応している。	相談等があった際には迅速に対応するよう心掛けている。また、専門機関とも連携を図り対処方法などを検討している。	保護者に寄り添った対応を心がけ、相談しやすい事業所になるよう今後も丁寧な対応につとめる。
2	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援。	支援計画作成時や必要時に面談を通して、ご家庭での悩みやニーズに合わせたアドバイスをを行っている。	事業所と家庭での共通理解を図り、悩みや不安に対する助言等を今後も行っていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会。	茶話会の開催では、集まりやすい時期やテーマを考えて開催している。また、保護者の方で対談する時間を設け、保護者同士の交流を行っている。	茶話会の開催は今後もより多くの保護者の方に参加をして頂けるように、開催頻度や時間について検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会。	大きな集団との交流をする機会を持つことはできなかったが、公園や外出の際は挨拶をかわしたりするよう心がけていた。	お子さんの年齢や思いを考慮しながら交流する機会を検討していきたい。
2	きょうだい同士の交流	保護者同士の交流は茶話会を通して行うことができたが、きょうだい同士の交流は年齢差などもあり行うことが難しかった。	きょうだい同士も交流できる機会があれば検討していきたい。

放課後等デイサービス

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリームつばさ（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日		～	令和 8 年 1 月 30 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 15 日		～	令和 8 年 1 月 30 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 16 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を自分で選択し使用することができる環境になっている。	一人ひとりのお子さんに合わせて、集中して課題に取り組んだり、気持ちを安定させる必要性がある場合などに個別の部屋を使用できる環境にある。	広さがある分、死角をつくらないように配慮していく。
2	家族からの相談や申入れがあった際は迅速かつ適切に対応している。	相談等があった際には迅速に対応するよう心掛けている。また、専門機関とも連携を図り対処方法などを検討している。	事業所と家庭での共通理解を図り、悩みや不安に対する助言等を今後も行っていく。
3	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている。	必要時にはすぐに学校と連絡を取り合える態勢・関係を構築している。	今後も情報交換を行い共通理解のもと支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会。	下校時間の関係で、交流する機会をつくるのが難しかった。	長期休み等で、交流の機会を検討していく。
2	きょうだい同士の交流	保護者同士の交流は茶話会を通して行うことができたが、きょうだい同士の交流を行うのが難しかった。	きょうだい同士が交流できるようなイベント等の開催を検討していきたい。